

## 1999 2月 八甲田酸ヶ湯 蔵田道子 白澤光代

12日(木) 晴れ 夜行バスで青森に着きバスで酸ヶ湯へ。青森駅のバス停にいた山スキーを持ったグループは自炊の予定らしく、市場で食料を調達していた。バスは両側を雪に覆われた道路を行く。酸ヶ湯では今年は部屋に通してしてもらえず、荷物置き場で靴を出し風呂場で着替える。

急いでバスに乗りスキー場へ。回数券でリフトに乗る。ゲレンデの急斜面にはまだ深雪が残っていた。私は今シーズン初めてのスキーで、少し練習したかった。ゴンドラで山頂に行き 午後からは酸ヶ湯のツアーに入れてもらおうと考えていた。顔に見覚えある城が倉のガイド氏に聞くと酸ヶ湯のグループもここに来るはずと言う。酸ヶ湯の顔見知りのガイド氏が見つからない。ガイド氏は新人で「途中からでは」と断られてしまう。酸ヶ湯のツアーは中央ルートを取って酸ヶ湯に戻るらしい。総勢30人近い。テレマークの講習中のノルハイムも30人ぐらい。年々2月の八甲田も賑やかになる。しかたなくフォレストコースをゲレンデを少しはずしてすべる。

酸ヶ湯はかなり変身していた。なんとエレベーター設置の工事中。湯治棟の洗面所は近代的な設備に変わり女性専用のが新設されていた。石鹸が使える玉ノ湯は5時までは2つ共女性専用になっていた。そして千人風呂の女性専用時間帯が朝夕の二回になっていた。

12日(金) 強風でゴンドラが動いていないため、ツアーは中止になった。蔵田さんはノルハイムのグループにCMHでの知り合いを発見した。彼は目下テレマークが楽しくて毎週のようにスキーに行くそうだ。ゲレンデで深雪を探す。ボーダーも狙いは同じだ。

午後からゴンドラで上にゆけた。強風に飛ばされて、頂上付近に新雪は無くガチガチの斜面だ。ボードを抱えたグループはダイレクトコースをちょっと偵察してから、田茂菴の頂上に向かう。かつて知ったると言う風情だった。我々はダイレクトコースをとるが堅いので降りるだけでも大変。

13日(土) 初めてツアー。酸ヶ湯の主任ガイドは今日はテレマークのグループに付き我々のトップは城が倉のガイドの寺崎氏である。新人の沖氏はしんがりで人数確認役。総勢約30人。スキーを担いで田茂菴岳の頂上へ。今年は細い竹の道標がそこまで付けられていた。昨日のボーダーはこれを辿っていたのだった。谷に向かって滑る。短いが快適。城が倉のグループと場所を分け合える広さもある。ルートは回り込んでフォレストコースに合流。久々のツアー気分を味わえた。メンバーにはテレマークの人も何人かいる。人数オー

バーだからとノルハイムに断られたという人も居た。テレマークの板に山スキーの締め具などという人も居た。昨年テレマークに挑戦したけど疲れてこりごりだそうだ。

午後はカモシカコースと称するが寒水沢だ。トラバースしている所で、寺崎氏が「頂上付近の木のまばらな辺りにカモシカが居る」という。言われてみると点の様に見える。広い雪原に出たところで休憩。平原はトレースを辿って滑る。

14日(日)今日の飛行機は17時20分の予定。昨年から酸ヶ湯から青森空港への直行バスは廃止されたそうだ。バスで青森に出してから空港行きに乗るのが一番安い。タクシーを横内に予約しそこまではバスで行くのが次に安い。我々はたった1日しか楽しめなかったなので、欲張ることにする。タクシーを15時半 Gondra 駅に予約。荷物は持って行ってそこで預ける。ツアーは15時には終わるので間に合うはず。ガイドの沖氏に「ずいぶんタイトな予定ですね」と呆れられた。

昨夜またしっかり降ったので雪は深い。深すぎて直滑降に近くしないと滑れない。そして斜度が緩いところはラッセルに近い。スキーを着けても膝より10センチは上までもぐる。今日はガイドの寺崎氏は深雪用の幅広のファトボーイを履いている。フォレストコースはパトロールがまだ戻っていないので、始め閉鎖されていた。その少し外側をコースに取っている。いざというときにはゲレンデに逃げられる。八甲田山荘のガイドの相馬さんのボードのツアーも深すぎる雪に苦戦。しかし数年前の1月中旬の時とは異なり、以前に1回は雨が降っているらしく、底なしの新雪ということにはなかった。

午後場所を少しずらしているがフォレストコースの近くだった。3時にツアーは解散し、予定道程にタクシーと飛行機を乗り継いで帰れた。タクシー代は6300円だった。

